

オキシコドンからフェンタニルへのオピオイドスイッチングによる 悪心改善効果とその要因についての解析

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

中等度から高度のがん疼痛の緩和には、鎮痛薬の中でも強オピオイドの使用がガイドラインで推奨されています。

実臨床で、オキシコドンが広く用いられていますが、オキシコドンの継続や増量が許容できないほどの悪心・嘔吐を認める患者さんも、しばしば経験するのが現状です。

他のオピオイド鎮痛薬として、フェンタニルは、消化器症状が少ないことが報告されており、オキシコドンで悪心改善が得られなかった場合に、フェンタニルへ変更する事で改善効果が期待されますが、まだ改善効果に関して検討された報告は十分にありません。

今回、オキシコドンからフェンタニルへの変更による悪心改善の効果と、その患者背景について検討し、より安全な薬物療法の実践に尽力します。

診療の中で得られた情報を使用しますが、この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。収集した情報は個人情報进行削除します。データは当院にて情報を集約し、解析・検証を行います。

研究の対象となる方

2018年1月～2024年3月に当院入院中にオキシコドンからフェンタニルへのオピオイドスイッチングが実施された方

使用する試料・情報

年齢、性別、身長、検査結果、服薬情報、既往歴、など

使用開始予定日：研究実施許可日

研究予定期間

2024年9月12日～2027年3月31日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

〔研究の情報管理責任者〕 薬剤部 高橋 周平

〔当院の個人情報管理責任者〕 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 薬剤部 高橋 周平

住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)